映画館の閉館と開館

上原 昇（２組）

昨年から今年にかけて、東京都内およびその周辺で映画館の閉館と開館が続いているのが、映画ファンを自認する筆者としては気になる出来事です。
昨年４月末に、筆者の自宅近くの JR 大宮駅西口にミニシアター「OttO」がオープンしたことは本ＨＰでレポートしました。
昨年７月には東映の直営館「丸の内 TOEI（丸の内東映から改称）」（銀座３丁目）が 65 年続いた舞台のカーテンを閉じました。ゆったりとした建物の中で、大スクリーンの映画を観ることができた昭和の匂いを感じさせる好きな映画館でした。
閉館と聞いて、“さよなら丸の内 TOEI” 特集中の昨年５月に、『二百三高地』（1980 年、監督：舛田利雄、主演：仲代達矢）という古い戦争映画を観に行ってきました。
この映画で主演の乃木希典役を演じた仲代は、公開から 45 年後の昨年 11 月に、生涯現役の 92 歳で亡くなりました。

年明け早々の１月には都内の２軒のシアターが閉館しました。
その一つの「シネ・リーブル池袋」は、池袋駅西口の駅ビル「ルミネ」8 階にある映画館で、26 年前にオープンしました。この映画館には、往年のフランスの名作『望郷』（1939 年）、『大いなる幻影』（49 年）、『天井桟敷の人々』（52 年）などを始め何作か観に行きました。
池袋には老舗名画座の「新文芸坐」や新しいシネマコンプレックスなど、多くの映画館がひしめき合っていますので、エンタメ業界競争も厳しかったのでしょうか。

https://www.theatres.co.jp/pickup/6c85e3a269f8410da3e4b5105db161d5a9fd7c1a.html

もう一つは、新宿駅東口にある「シネマカリテ」です。こちらのオープンは 2012 年と言いますから歴史は短いです。ビルの地下 1 階の目立たないミニシアターで殆んど行くことはなかったですが、こちらも激戦地区の新宿で営業を続けるのは大変なことと思いました。

一方、ミニシアターオープンのニュースも聞こえてきました。
昨年 12 月に地下鉄「神保町駅」から徒歩３分、神田小川町３丁目に「CINE MALICE（シネマリス）」という新しい映画館が誕生しました。
劇場パンフには “小さくても善いものを” （ＨＰを見ると、神田駿河台の文化学院を創設した西村伊作の言葉を借用）とあり、シアター１（67 席）とシアター２（64 席）の２スクリーンを備えています。
先日、神保町で会食の機会がありましたので、「シネマリス」を訪ねてみました。

入り口には看板もなく、初めて行く人には分かりにくく、宣伝臭が全く感じられないシアターですが、映画愛好家には楽しみな場所となることでしょう。
https://eiga.com/news/20251219/8/

「CINE MALICE」入口

神保町には「神保町シアター」という名画座があり、私も時々、電車を乗り継いで、古い邦画を観に行くことがあります。
また、かつて神保町には「岩波ホール」という有名なシアターもありましたが、コロナ禍の影響を受けて、2022 年 7 月に惜しまれながら閉館してしまいました。

上田市の映画館事情をみても、筆者が高校生の頃は街中に、「ニュー・パール」を始め６つの映画館がありました。今はアリオ上田内のＴＯＨＯシネマズ上田（8 スクリーン）だけが定期上映館となっていて、昔からの上田映劇が何とか営業を続けているようです。

マルチスクリーンを備えたシネマコンプレックスが主流となった映画館業界ですが、ミニでも個性のあるシアターがここかしこに生まれるのは嬉しいことです。
いつまで映画館巡りを続けられるか分かりませんが、足と目と耳が正常に動いているうちはと思っています。

（2026 年 2 月 10 日 記）　　以上